第四回九州洞窟談話会 in 沖永良部島

後藤 聡、村上崇史、飯田暁

（GOTO, Satoshi & MURAKAMI, Takashi & IIDA Satoru,
日本洞窟学会企画運営委員会所属）

はじめに

沖永良部島には 100 を超える洞窟が所在し、その規模の大きさや美しさから全国のケイバーを魅了し続けている。これらの洞窟の多くは、主に大学探検部やケイビング団体を主体とした若手ケイバー達の数十年に渡る地道な調査によりその全容が明らかにされてきたものである。また、そのことにより学生のケイビングや測量調査の技術、能力が養われてきた。毎年夏休みや春休み期間には、全国各地から学生や社会人など多くのケイバーが、美しい洞窟と開放的な空気を求めて沖永良部島を訪問し､盛んに洞窟探検を行ってきた。しかし、近年特に学生団体では様々な障害によって洞窟に行く機会が減少した上、沖永良部島ケイビング協会が作成・公開した洞窟ガイドラインによって、ケイバーが島の洞窟から締め出されかねない事態となるなど、沖永良部島で洞窟活動を行うためのノウハウが継承されない状況になりつつあった。そこで、日本洞窟学会企画運営委員会では、ケイバーが沖永良部島で安全にケイビングを行うとともに、島内の方々から気持ち良く受け入れてもらうために必要なことを学び合う場を提供するため、第四回目となる九州洞窟談話会を沖永良部島で開催した。

これまでに、九州洞窟談話会は福岡県の平尾台を会場として、2010 年から毎年開催されてきた。談話会の主要な企画となる座談会では、毎回テーマを設け、各団体の代表による洞窟に関する発表と議論を行い、参加者全体でテーマに対する理解を深め合ってきた。これまでに設けられたテーマは、洞窟に関連する安全対策や活動準備、事故対策などで、また、第三回となる 2012 年には、小倉南消防署による救急救命講習を受講し、事故対応能力の向上も図られた。これらの活動を通じて参加者の安全意識やモラルの向上といった成果を上げることができたと自負している。

第四回九州洞窟談話会は、知名町、和泊町からご後援を頂き、2013 年 3 月 7 日より 6 日間の日程で実施された。参加者として、沖永良部洞窟探検隊、東京スペレオクラブ、鹿児島大学学友会探検部、佐賀大学探検部、九州大学探検部、山口大学洞穴研究会、広島大学探検部、岡山大学ケイビングクラブ、京都産業大学探検部、東海大学探検部、早稲田大学探検部、および日本洞窟学会など全国各地から 45 名のケイバーが集まった。初日の 3 月 7 日に「旅館やこも」において開かれた座談会では、沖永良部島の洞窟の特徴や島内の事情に留意し、ケイビングのみならず島内での生活面においてケイバーが注意すべき事柄がテーマとして設定された。具体的には、沖永良部島の自然・社会環境、洞窟外での生活面で守るべきルール、洞窟活動のための渉外方法、沖永良部島の洞窟の特性と保護、および沖永良部島における安全対策と事故対応、などの個別テーマを各参加団体に割り振った他、一部の大学には普段の活動紹介を行ってもらった。翌 3 月 8 日には、沖永良部与論地区広域事務組合消防本部から講師をお招きし、「あしびの郷」を会場に救急救命講習を受講した後、「海見洞」において洞窟救助訓練を行った。この訓練は署長を始めとする消防隊員の皆様にも視察して頂き、万が一の洞窟事故発生時に備えた連携を深めることができたと考えている。「知名町中央公民館」において開催された洞窟講演会では、沖永良部洞窟探検隊代表の牧野浩典氏、当学会会長の浦田健作、副会長の後藤聡の三氏が演者として、沖永良部島における洞窟調査の歴史や最新のカルスト研究、世界の鍾乳洞についての講演を行った。この講演会は鹿児島県からもご後援を得て、公開行事として一般の皆様にも聴講して頂き、ケイバーの活動を紹介することができた。そして、これらで学んだことに基づいて 3 月 8 日から 11 日の四日間で洞窟地学巡検と洞窟事故対応訓練、洞窟探検を実施し、参加者が沖永良部島のカルストの特徴を学び、島で安全にケイビングするためのノウハウを獲得することを目指した。

活動概略

3 月 7 日：沖永良部島到着、夕方から座談会を実施。
3 月 8 日：洞窟地学巡検（終日）、救急救命講習（午前）、洞窟救助訓練、および洞窟探検（午後）を実施。夜には公開行事として洞窟講演会を開催。
3 月 9 日～ 11 日：洞窟地学巡検、洞窟事故対応訓練、および洞窟探検を実施。
3 月 12 日：宿所撤収、離島。